

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【本太小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策

知識・技能	引き続き、ドリル学習を行うことで基本的な知識・技能の定着を図っていく。個々の躓きに関してはドリルパークだけではなく、スタディサプリ等をこれまで以上に活用したり、少人数指導を生かしたりすることで個に応じた指導を行えるようにしていく。
思考・判断・表現	知識・技能の習得が良好なことから、引き続き、「思考力・判断力・表現力の向上」を本校の重点目標として取り組んでいく。授業場面では、学習課題や学習内容を生活場面と結び付けたり、他教科と関連付けて活用したりすることによって、身に付けた知識・技能がどのように役立つのか考えさせていきたい。また、本年度同様、教育課程部会や学力向上カウンセリング研修を活用して効果的な方を模索していきたい。
主体的に学習に取り組む態度	引き続き、「課題やまとめを児童の言葉で行う」ことを当たり前にしていきたい。また、学習計画も児童が立てられるようにしていきたい。一斉型授業だけでなく、児童の主体性を引き出せるような形の授業にもチャレンジしていきたい。

① 目標・策

	目 標		策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」に関わる領域において、さいたま市平均正答率を5p上回る。	⇒	R5年度全国学力・学習状況調査の振り返りから、本校児童の課題を分析し、指導改善に役立てる。「ドリルパーク」等を活用し、知識・技能の反復・習熟に取り組む。学期末に児童が学習履歴を確認し、長期休みに重点的に反復・習熟を行えるようにする。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査自校結果において平均無解答率を1割下げる。 R5年度さいたま市学習状況調査「思考・判断・表現」に関わる領域において、さいたま市平均正答率を3p上回る。	⇒	「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」6つのプロセスについて理解し、ICT環境を基盤として深い学びを導く学習過程による学習活動を展開できるようにする。学期ごとに各学級の課題を把握・分析して改善を図り、目標の数値を達成できるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を92%以上にする。	⇒	授業において、課題設定や学習のまとめを児童が行えるようにしていく。その際、児童が主体的に課題を解決する時間を設ける。また、授業中に自己の振り返りができる時間を設定する。

<小6・中3>(4月～5月)

⑤ 目標・策の達成状況

知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査では「知識・技能」において、ほぼ全ての学年・教科において目標の数値を達成した。、ドリルパークを活用した漢字や計算の反復練習が習慣化し、自校テストの結果に伸びがみられる。未達成であった学年・教科においても引き続き活用し、身に付けられるようにしていく。	A
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査では無解答率を1割以上下げることができた。また、「思考・判断・表現」において、ほぼ全ての学年・教科において目標の数値を達成した。引き続き、深い学びへとつながるように授業展開を見直していく。	A
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、目標を達成することができた。全体で見れば達成しているが、個人差もあるため、引き続き自分で考えて取り組むことができる児童を育成できるように指導していく。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析

知識・技能	全国平均に比べて国語、算数共に高い正答率であった。平均正答率からは、知識・技能を概ね身に付いているといえる。国語では、「日常よく使われている敬語を理解しているか」をみる問題の正答率が比較的低かった。算数では、「『図形の性質』や『割合』について理解しているかを問題の正答率が比較的低かった。校内で共有して、指導に当たりたい。
思考・判断・表現	全国平均に比べて国語、算数共に高い正答率であった。国語では、「図表やグラフなどを用いて、自分の考えを書き表す」問題の正答率が低かった。算数では、「高さが等しい三角形において、底辺と高さの関係から面積の大小を判断して、理由を記述する」問題の正答率が低かった。根拠をもとに自分の考えを伝えていくことができるようにしていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査において、R4年度の自校と比べて無解答率が大幅に減少した。問題に対して粘り強く取り組む力が付いてきている。また、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に対する肯定的な回答が92%であり、調査は異なるが目標の数値を達成した。引き続き、指導を続けていきたい。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析

※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。

小3	R5年度調査において、目標の数値を概ね達成した。国語では「話の中心を聞き手に伝える話し方」を問う問題で課題がみられた。算数では、「数直線上の大きさ」「立方体の構成」「円の半径等の定義」を問う問題で課題がみられた。	小4	R5年度調査において、目標の数値を達成した。国語では「目的に応じて、中心となる語や文を捉えて、文章を読む」ことを問う問題で課題がみられた。算数では、「変化と関係」「データの活用」に関する問題の無解答率が比較的高く、課題がみられた。
小5	R5年度調査において、目標の数値を大きく越えて目標を達成した。無解答率が低く、0%の項目も多い。国語では、教科担当教員が「学習計画や言語活動を児童が決める」ことを意識して指導を続けたことの成果がみられた。算数では、間違えやすいポイントを生かした授業を続けたことの成果がみられた。一方で、「割合」の問題に課題がみられた。	小6	R5年度調査において、目標の数値を越えて目標を達成した。無解答率が低く、0%の項目も多い。国語、算数では、思考力・判断力・表現力に関わる問題の正答率が特に高い。国語では漢字の定着や「資料を活用して伝える」問題に課題がみられた。社会では、「歴史と人々の生活」に関する問題に課題がみられた。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)

	目 標		策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし